

RNNReligious NGO Network
On Humanitarian Support
Since 1996世界各地で人道援助に取り組む
宗教NGO、宗教者、信仰者を結ぶ
人道援助宗教NGOネットワーク

RNNニュースレター

そよかぜ

爽やかな風を世界の人々に

発行所

国際貢献・ヒア岡山構想を推進する会内

人道援助宗教委員会

委員長：西村美智雄

広報担当：永宗幸信

事務局

〒701-1212 岡山市尾上神道山2770

TEL / FAX 086-284-1242

アドレス <http://www.rnn-center.org/>

RNN事務局長：黒住宗道

2000年8月 於ニューヨーク国連本部
国連本部で初めて開かれた宗教サミット

RNN事務局長 黒住 宗道

昨年八月二十八日から三十一日まで、ニューヨークの国連本部を主会場として世界の宗教者・精神的指導者による「ミレニアム世界平和サミット（国連宗教サミット）」が開催されました。

国連は長く宗教問題をいわば「敬して遠ざけて」きましたが、米ソ冷戦後に特に顕著になった宗教抗争の色合いの濃い民族紛争や内戦が続発する中、「二十一世紀を真に平和な時代とするために国連も宗教とかかわりをもつべき」との立場から、国連初の「生え抜き」事務総長であるコフィ・アナン氏の英断によって史上初めて実現した会議でした。開催されること自体が画期的な出来事であったこの会議ですが、内容的にも非常に意義あるものとなりました。世界九十余カ国から出席した千人を超す宗教指導者が、一堂に会して世界の平和を祈った国連本部総会議場は、今後「聖堂」と呼んでも差し支えないような聖なる場となり、全体を通じてこのサミットほど寛容の精神が重んじられた宗教者会議はなかったようです。

また、これは日本の、というよりも岡山の有志の方々による深い理解と協賛を得て実現したことでしたが「世界の火薬庫」と呼ばれて久しいバルカン半島から

出席した十一名の宗教者と、現在も内紛が続く西アフリカのシエラレオネをはじめとした「紛争地域からの出席者」を招いて、今まさに人々が直面している現実問題に対する緊迫した話し合いが持たれたことは、ともすれば「ミレニアム記念

世界各地から約1000人の宗教者が国連本部に参集



イベント」になりかねなかった本サミットにあつて、困難な課題を抱えながらも問題解決に取り組む宗教者の使命がいかに重要であるかを明らかにするものでした。そして何よりも、今後国連と宗教が共同・協働して世界の平和のために行動を開始する旨の声明が歴史上初めて公にされたことは、次世紀に向けた最大の成果であったといつてよいと思います。

しかし、その一方で宗派・教団を超えて話し合うことの難しさが表出したのも偽らざる現実でした。世界の宗教者の前で、しかも国連本部で、自らの信じる教えを説き伝えたい気持ちばかりですが、所定の時間を無視して話し続ける発表者や、相次ぐ予定外の発言者たちには、「ルールを守ってこそその寛容ではないか」と疑問を感じたものです。また、宗教対話・協力を推進する既存のネットワーク組織との連携も、まだまだこれからと見受けられました。この会議への日本からの公式出席者として、伊勢神宮大宮司様と天台座主様を大代表とした二十七名からなる「日本使節団」が構成され、縁あって私が当使節団の幹事長（コーディネーター）という大役を仰せつかりました。

主催者側との連絡・調整をはじめとした諸作業一切を任せられましたが、RNNを通して日ごろから学ばせていただいている宗派・教団を超えたネットワークづくりの経験を活かして無事重責を務め終えることができ、心から有り難く思っています。

国連を舞台に十年ごとにこのサミットを開くこと、主要メンバーで国連事務総長の諮問評議会を設置して今後の対応を検討すること等が確認されて歴史的な会議は幕を閉じましたが、中東問題をはじめ、世界には和平実現に困難を極める問題が山積しています。西暦二十一世紀が平和な時代となることを、宗教者の一人として祈つてやみません。

(黒住教副教主)

そよかぜ
小与加世

新世紀が始まった。今、どんな風に吹かれていますか。そよ吹く風にも敏感に、丘の上にも立つ人よ。企業にメセナ（文化支援）があるように、宗教団体にも利益の社会還元があつていい。浄財の一部をNGO、NPOに供出する。その活動支援のために予算化、支出すれば信徒はよるこんで納得、教団の大義名分を果たすことになる。教団がその利益を信徒と共有する。つまりディ

スクローズ「公開」し、公益性に立つならば、教団と信徒の間に信頼が生ずればこそ、利益が相反する敵対関係にはならない。浄罪の法人会計を実現するには少しの勇氣、信頼が要る。実際には大多数の寺院、教会に出来かねているが、その規模の大小にかかわらず、きつと実現できる。どうしたらNGO活動、人道援助が活発になるか、一つの提案というか新世紀の「初夢」みたいなものだが、「そよかぜ」が吹く大空に舞う風のようないい思いを描いてみた。

RNN初代委員長
真言宗御室派長泉寺住職

宮本 光研

インド西部大地震で毛布支援

短期間で一千枚を確保

多くの人々の理解を実感

今年1月に発生したインド西部大地震の被災者の支援として、AMD

Aの呼びかけに応じて約1000枚の毛布を集めてAMDに寄託しました。1月29日に黒住事務局長のもとにAMDから連絡が入り、早速、メンバーにEメールとFAXで伝達したところ、カトリック、最上稲荷教、真言宗、天台宗、黒住教、立正佼成会、天理教などのメンバーから次々に毛布が寄せられ、31日に岡山空港格納庫にトラック2台で持ち込み、現地で瓦礫を取り除くための重機が不足していることから調達されたユニボ2台をはじめ、薬品、水、乾パンなど市民、県民から寄せられた支援物資と一緒に2月1日にチャーター機で現地へ輸送されました。

今回の支援では黒住事務局長が大活躍。1000枚のうちの約800枚は黒住事務局長が確保したものでした。黒住事務局長は、県内の教会所や信者（お道づれ）に呼びかけただけでなく、機転をきかせて祭典の時などに取引のある貸布団業者、クリーニング業者、ホテルなど毛布の提供を受けられそうな岡山市内の業者にも声をかけられました。

話を聞いた皆さんも黒住

教や私たち宗教者が、日頃からボランティア活動に熱心に取り組んでいることをよく理解してくれていたよ

うで、快く速やかな対応が得られたということです。

私たちRNN、また個々のメンバーそれぞれがこれまでに取り組んできた活動の積み重ねが、このような形で実ったことは、このうえない喜びであり、この緊急毛布支援における取り組みが山陽新聞にも大きく報じられたのも有り難いことでした。

現在、RNN海外メンバーであるインド在住のボディ・ダルマ師とサングラトナ・法天・マナケ師に、宮本前委員長、永宗副委員長を通じて連絡をとっていたが、現地での活動も含めた独自の支援ルートの確立を模索しております。

岡山空港格納庫に集積された毛布等の支援物資



「ここは神社？それともお寺さん？」。参拝者特に観光客からよく訪ねられます。

一般に稲荷神社のイメージが強いですが、赤い鳥居があつて、大注連縄があつて……。そうかと思えば、お坊さんの姿が見えるし、ご祈祷は法華経。首をかしげたくなるのも当然かも知れません。

正式には最上稲荷教総本山妙教寺と称し、まぎれもなくお寺です。寺社の形態の混在は神仏混淆だからで、当山の大きな特徴でもあります。

実は、一概にお稲荷さんと言つても一律ではなく、神道系と仏教系に分かれています。

「日本三大稲荷」とは、前者で最も大きい京都・伏見稲荷、後者の代表格である禅宗の愛知・豊川稲荷と日蓮宗系の当山を称したものです。

ご本尊は最上位経王大菩薩（さいじょういぎようおうだいばさつ）。お名前は少々いかめしいものの、実際はふくよかで優しい女神です。そして最上稲荷の名称の由来でもあり

RNNメンバー紹介シリーズ①

こんにちは

最上稲荷です。



ます。狐は、言わば最上様のお使いで、御神体ではありません。

商売繁盛や交通安全のお参りが多い当山ですが、教えとしては四つの生活信条を実践目標としています。

『一に信心』何ごとも拝む心を先に立て／『二に空無（くうむ）』何も無いと思えば不足なし／『三に忍辱（にんにく）』何ごともがまん第一／『四にお慈悲』何ごとも仏ごころで暮らしましょう。

また、社会活動の分野においては、RNNや世界連邦などには教団として加盟する一方、職員有志によるボランティア組織『いなほの会』が身近な活動を地道に続けています。

RNN活動協賛者名

カトリック

黒住教

金光教

最上稲荷教

真言宗

創価学会

天台宗

天理教

プロテスタント

立正佼成会

臨済宗

※右記の名称につきましては協賛者が寺院、教会、団体、個人等の場合でも所属教団、宗派名のみを掲載させて頂きました。（五〇音順）

三年連続の「劇団あけぼの」岡山公演が実現

JFCと母親によるミュージカル公演

◆10月6日 倉敷・沙美小学校 ◆7日 金光教本部で

今回で3回目となるJFCミュージカル（主宰＝DAWN）が昨年10月6日、7日にRNNの主催によって2会場で開催されました。6日に行なわれた倉敷市立沙美小学校での公演には児童、職員、PTA、地域住民など約100人が来場しました。また、大祭期間中の行事の一つとして7日に開催された金光教本部での公演には、約300人が来場しました。

今回の日本公演では、女性たちのプログラムと子どもたちのプログラムの二本立て。かつて日本でのエンターティナーとして働き、「ジャパゆき」というレッテルを貼られ



10月7日の金光教本部での公演

て、日本でも母国でも厳しい視線を受けながら生きていく女性を抱える苦しみと、JFCとして生まれ、いじめや父親に捨てられたと感じている苦しみから立ち直っていく姿を描いた演技に多くの涙を誘いました。

DAWNは、フィリピンにおいて女性の人権と自立を求めて取り組むNGOで、3年前から、かつて日本へ出稼ぎ労働者として働いたフィリピンの女性たちと、日本人男性の間に生まれた子どもたち（JFC）への支援として、ミュージカルの創作活動を通してワークショップを進めてきました。日本での公演活動では、子どもたちの父親を探して出会うという活動が含まれます。これは父親に養育費の請求や認知などの要求を行うことではなく、子どもたちが確かに自分の父親がいることと、父親と触れあうことでこれからの人生に勇気と希望を持ってもらいたいという趣旨のものです。

今回も数人の子どもの父親が見つかりました。中には全く拒絶する父親がおり、また中には一緒に暮らせないが、これから養育費を送ることを約束してくれた父親がおり、子どもたちは悲喜こもごもの出会いと別れを経験しました。

RNN青年
交流会通信

青年交流会幹事

杉本 健志

世界連邦岡山県宗教委員会とRNNとの共催で、これまで3回の青年交流会を開催してきました。一昨年10月には、立正佼成会を会場に初めて交流会を開きました。多くの方のご協力をいただいて、立正佼成会、天台宗、カトリック教会、最上稲荷教、黒住教、金光教などから約70名の青年の参加がありました。

その時、参加された青年の方々から、こういう会合をぜひ続けてほしいとの意見を多くいただいた。昨年5月に2回目の交流会を岡山カトリック教会で開催しました。せっかくよその教団にお邪魔するのだからと、カトリック教会の教えや活動、また施設などを紹介していただく企画を実施しました。

9月10日金光教本部を会場に
第3回RNN青年交流会開催

9月には、金光教本部を会場に3回目の交流会を同様に開きました。「クイズラリー」では、金光教の青年が説明役として会堂広前や祭場など各施設に待機し、他宗の青年ら

が見学して回るという趣向。他宗からの参加者は初めての金光教本部に興味を示していました。その後、各施設の説明などからクイズが出され、参加者は頭を悩ませながら回答していました。また、各テーブルに分かれてのパーティでは、それぞれの宗教について熱心に質問が交わされていました。

自分の信仰を掘り
下げるいい刺激に

参加した青年の方の声を紹介しますと、「はじめは不安だったけれど、



宗教、宗派を超えての純粋な交流の場となった

他宗の皆さんはすごく親しみやすく、とても初対面の人たちとは思えませんでした」「お互いの教えを話し合ううちに自分の信仰が問われているような気がしたり、表現の違いなどで自分の信仰を深く掘り下げたい刺激になります」「他宗の方と

触れ合う中で、信仰しているのは自分のところだけではない。信じている神様や教えの表現の違いはあるけれど、みんな同じ信仰をしているんだということが肌で感じられた」という感想が聞かれています。

翻って、今日の日本では、若い人たちの間で様々な問題や事件が起こってきています。社会はこれまでになく宗教を必要としているはずですが、一方で人々の宗教不信、宗教離れという現実もあります。そのような時代であるからこそ、宗教の尊さ、有り難さを現して、この岡山県の次世代を創っていくのは、若い宗教者ひとりひとり以外に他なりません。21世紀は共生の時代と言われて久しいですが、樂觀できる状態とは言えない現状です。この活動は岡山という限定された地域での活動ではありませんが、世界の中の岡山という意識で手元足下のところで活動していく。それが、他府県、あるいは世界に拡がっていくという風に夢を持って取り組んでいきたいと思っています。楽しくやってみますので、ぜひ参加してください。

◆（金光教足守教会副会長）◆

なお、杉本幹事は、昨年10月21日に最上稲荷で開催されました第20回世界連邦岡山県宗教者大会で青年交流会の活動報告を行いました。

第5回ボランティア講座開催 神戸元氣村 吉村誠司副代表を迎えて



9月2日、岡山県浅口郡金光町の金光教本部1階ホールを会場に、「第5回RNNボランティア講座」がKPAC（金光教平和活動センター）との共催で開催され、約100人が聴講しました。

各地の緊急救援活動の他、台湾大震災の被災者救援活動にも当たられました。

講演では、「緊急救援活動―初動と対応」

今回の講師は、阪神・淡路大震災で発足した被災者支援NGO「神戸元氣村」副代表の吉村誠司さんが務められました。

吉村さんは、阪神・淡路大震災の直後に神戸市長田区に入って「神戸元氣村」に合流。その後、各地の緊急救援活動の他、台湾大震災の被災者救援活動にも当たられました。

第4回ボランティア講座開催 一隅運動本部 荒樋師、サンガラトナ師を迎えて

RNNのメンバーの所属する教団や宗派が企画した講演や研修会などにRNNも共催者として参加して、お互いの宗教の活動への理解を深めていくという願いのもと、7月3日、岡山天台宗仏教青年会のボランティア講座にRNNが共催者として加わる形で、「第4回RNNボランティア講座」が岡山市磨屋町の光珍寺で開催されました。

講師は、天台宗の一隅を照らす運動総本部次長（当時）の荒樋勝善師と、印日仏教友好協会事務総長でインド禅定林住職のサンガラトナ・法天・マナケ師Ⅱ写真Ⅱが務めて行われました。

午後3時からの第1部では荒樋師が「一隅を照らす運動総本部の取り組み」を「比叡の光」のビデオを放映しながら紹介しました。



緊急支援等活動報告

●あいらん地区支援
カトリック岡山教会が中心となって実施している大阪市西成区の「あいらん地区」（金ヶ崎）の日雇い労働者への支援活動を一昨年に引き続き、昨年12月26日にRNNで支援させて頂きました。支援に参加した西村委員長と金井KPAC事務局長の2人に加え、金光教大阪センターの協力も得られ、ワゴン車で岡山から運んだ支援物資を同地区の「旅路の里」「出会いの家」に無事届けることができました。なお、金光教大阪センターの方々は、この支援活動をきっかけにして2月3日には三角公園で炊き出し奉仕も行いました。

●エルサルバドル大地震
1月13日に中米エルサルバドル共和国で発生した大地震の被災者への支援募金は、2月13日に再び地震が発生したため、継続して募金を行ってきました。4月1日現在で、5団体より1117,000円の義援金が寄せられています。

●インド・西部大地震
本紙2ページ上欄に紹介されている通り、約1000枚の毛布支援を実施したほか、4月1日現在で、6団体より1,598,383円の義援金が寄せられています。

●義援金・協賛金等は
郵便振替口座
加入者ⅡRNN
01310・9・63933
で受け付けております。

【お詫いとお知らせ】
「そよかぜ」3号の発行につきましては、当初の12月12日の予定が大幅に遅れ、ご迷惑をおかけしました。謹んでお詫い申し上げます。なお、次号は8月8日の発行予定で承ります。広報担当 永宗幸信

RNN副委員長 カトリック岡山教会 服部神父の送別会

RNN副委員長として活躍されていたカトリック岡山教会の服部大介神父Ⅱ写真中央Ⅱが今春から



服部副委員長を囲んで（左：黒住教本部・神道山）

昨年12月に完成した「動く参道」を通じて大教団に参拝。西村委員長がRNNを代表して神前に玉串を奉奠し、続いて教主公邸の座敷に移動し、定例会議と送別会を行いました。

黒住教名物料理の「大元なべ」を囲み、服部副委員長には、その優しく二枚目の顔が洋酒のラベルや鏡に彫られた記念品がプレゼントされました。

山口市尾上の黒住教本部・神道山を会場に毎月の定例会に併せて、服部副委員長の送別会を行いました。

神道山では、「教祖神百五十年大祭」の記念事業として

集記 有馬実成氏を偲んで

昨年9月18日夕刻、社団法人ボランティア国際ボランティア会専務理事有馬実成氏が遷化された。享年64。



有馬実成氏

その来歴はいうに及ばない。96年の岡山NGOサミットにメインスピーカーとして演題に立ったフラティーフ・ウンソンタム・泰安史の夫君である泰成氏も、昨年SVA事務局長を

辞してタイに渡られるとき、有馬氏は「眼中の人」とは、別れてなお自分の眼中にその人が確かに存在していることだ。別れていく人の、眼中の人になりたい」と、別れを惜しんだ。